

法人向けサテライトオフィスサービス「ZXY(ジザイ)」 会員アンケート2024 ＜詳細版＞

サテライトオフィスを利用するハイブリッドワーカーの88%は、現在の働き方に満足

2024/05/15

ザイマックス不動産総合研究所

調査概要

ザイマックスグループは2015年より法人向けサテライトオフィスサービス「ZXY（ジザイ）」を展開し、現在約4,600社・57万人の会員に利用されている。

このZXY会員は、コロナ禍で働き方が変化した日本のオフィスワーカーの中でも特にフレキシブルな働き方を実践している層であるといえる。そこで、このたびザイマックス不動産総合研究所は、ZXY登録企業のうち利用の多い23社に勤務するZXY会員を対象に、働き方に関するアンケートを実施した。本レポートはその結果を公表するものである。

調査期間	2024年2月19日～3月1日
調査対象	ZXY登録企業のうち、利用の多い23社に勤務するZXY会員 157,163件
最終回答数	11,427件
分析対象数	11,122件 ※本レポートの分析に使用した回答に不備のあった305件を除外
調査方法	メール配信による

回答者属性

年代	職種	性別		役職
		男性	女性	
20代	研究開発・設計・SEなどの技術系専門職	1,433 (12.9%)		
30代	営業職	2,213 (19.9%)		
40代	経営・企画	3,186 (28.6%)		
50代	総務・人事・経理	3,546 (31.9%)		
60代	一般事務・受付・秘書	694 (6.2%)		
回答しない	調査分析・特許法務などの事務系専門職	50 (0.4%)		
	編集・デザイナー・ライターなどのクリエイティブ系専門職			
	その他	8,091 (72.7%)		
		2,911 (26.2%)		
		120 (1.1%)		
	役員・経営層			
	管理職			
	一般社員			
	その他			

レポート内のグラフに関して：構成比（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため内訳の合計が100%にならない場合がある。

1. 一般オフィスワーカー調査との比較(P.4~)

- ZXY会員調査の回答者（n=11,122）の属性を「大都市圏オフィスワーカー調査2023」（以下、一般オフィスワーカー調査）の回答者（首都圏のみ、n=2,060）と比較すると、職種は「研究開発・設計・SEなどの技術系専門職」（38.0%）や「営業職」（27.3%）の割合が高く、「総務・人事・経理」（5.6%）や「一般事務・受付・秘書」（5.2%）の割合が低かった。
- ZXY会員調査の回答者の94.4%はハイブリッドワーカーであり、一般オフィスワーカー調査（47.2%）と比べてその割合は顕著に高かった。
- ZXY会員調査の回答者は、労働時間の59.6%をテレワークで働いており、一般オフィスワーカー調査の回答者のテレワーク時間割合（25.4%）と比べ顕著に高かった。
- 現在の働き方や制度に対する満足度を聞いた結果、ZXY会員調査では「満足」または「やや満足」と回答した割合が80.2%と、一般オフィスワーカー調査（45.6%）を大きく上回った。また、ZXY会員調査の回答者のうち働き方が「ハイブリッドワーク（サテライトオフィス利用あり）」のグループは最も満足度が高く（「満足」と「やや満足」の合計88.0%）、「完全出社」（同39.5%）のグループを大幅に上回った。

2. サテライトオフィスのアクティブユーザーの特徴(P.10~)

- サテライトオフィスのアクティブユーザーは、労働時間の38.3%を在籍するオフィスで働き、残り6割超の時間をテレワークで働いている。また、サテライトオフィスで働く時間は12.9%を占め、週5日勤務とすると週に約半日程度となる。
- サテライトオフィスのアクティブユーザーのうち、サテライトオフィスで週2日以上働いている人は8.0%、週1日以上2日未満では15.8%に上る。
- 利用時間の長短に関わらず、サテライトオフィスのアクティブユーザーの8割超は、ZXYの利用により生産性高く働けていると感じていると回答した。
- サテライトオフィスのアクティブユーザーのほぼ全員が、今後のZXYの利用意向について程度の差はあれ「利用したい」と回答した。「できれば毎日でも利用したい」から「利用したい（週1~2日程度）」の日常的な利用意向がある割合については、長時間ユーザーほど高かった。
- サテライトオフィスの非アクティブユーザーも、今後のZXYの利用意向について82.7%が「利用したい」と回答した。

1. 一般オフィスワーカー調査との比較

1. 基本属性
2. 働き方と働く場所
3. 働き方や制度に対する満足度

1.1. 基本属性

ZXY会員調査の回答者属性: 20代・30代・40代の割合が比較的高く、一般調査より若い傾向

第1章では、このたび実施したZXY会員調査の結果と、一般的オフィスワーカーを対象に実施した「大都市圏オフィスワーカー調査2023 (*)」（以下、一般オフィスワーカー調査）の結果とを比較することで、ZXY会員の特徴を確認していく。

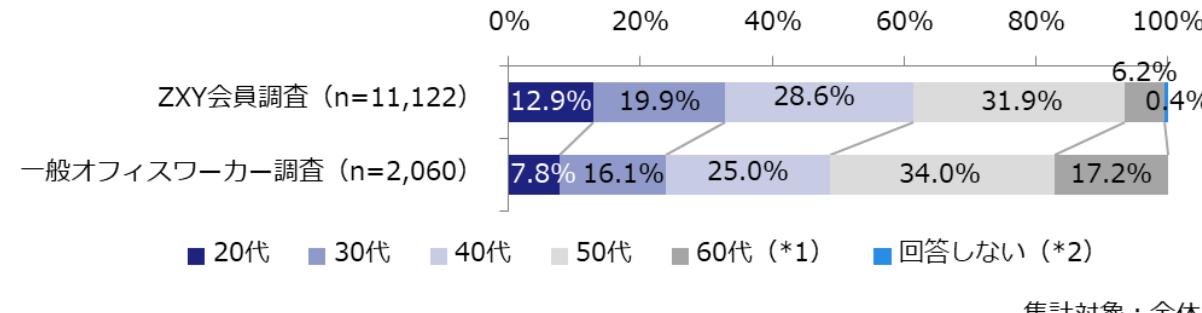
まず、基本属性を確認する。

年代は、ZXY会員調査では20代・30代・40代の割合が比較的高く、50代の割合が最も高い一般オフィスワーカー調査よりも若い傾向がみられた【図表1】。

性別は、ZXY会員調査の方が男性の割合が若干高かった【図表2】。

*詳細は2023年12月13日公表「大都市圏オフィスワーカー調査2023」（① https://soken.xymax.co.jp/2023/12/13/2312-worker_survey_2023_1/、② https://soken.xymax.co.jp/2023/12/13/2312-worker_survey_2023_2/）。なお、本レポートでは首都圏の結果（n=2,060）を比較対象として採用する。

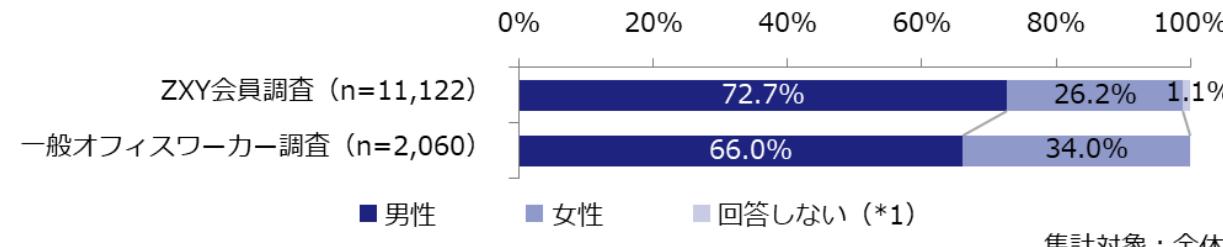
【図表1】年代 (ZXY会員調査／一般オフィスワーカー調査)



*1 一般オフィスワーカー調査では「60代以上」

*2 一般オフィスワーカー調査では選択肢なし

【図表2】性別 (ZXY会員調査／一般オフィスワーカー調査)



*1 一般オフィスワーカー調査では選択肢なし

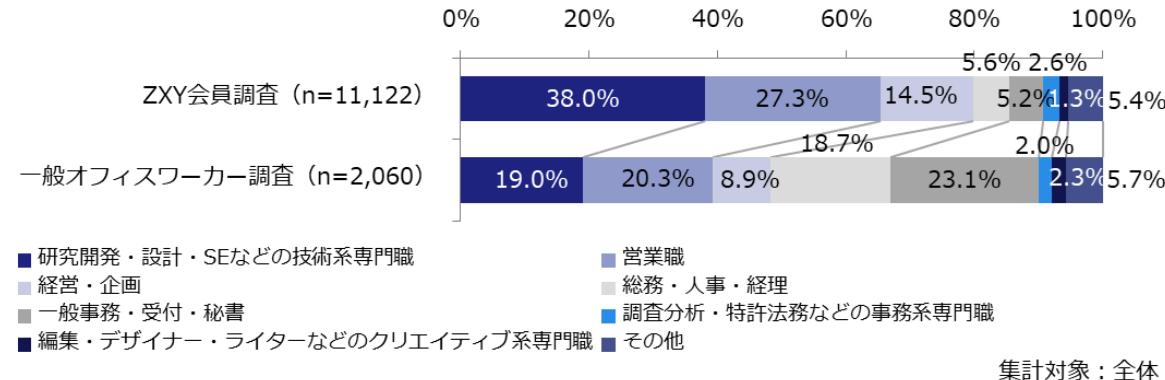
1.1. 基本属性

ZXY会員調査の回答者属性：「研究開発・設計・SEなどの技術系専門職」や「営業職」が多い

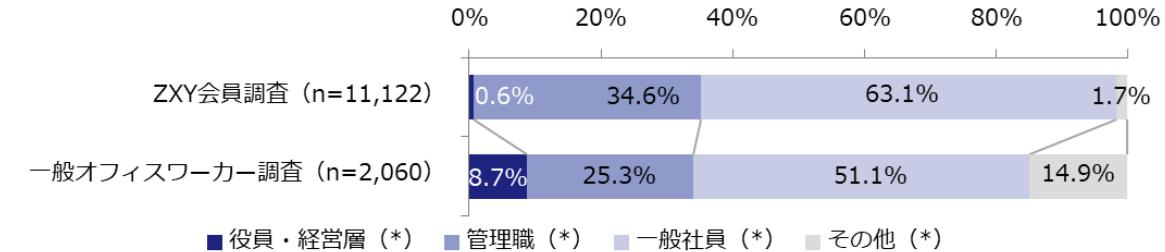
職種は、ZXY会員調査の方が「研究開発・設計・SEなどの技術系専門職」（38.0%）や「営業職」（27.3%）の割合が一般オフィスワーカー調査よりも高く、逆に「総務・人事・経理」（5.6%）や「一般事務・受付・秘書」（5.2%）の割合が低いという特徴がみられた【図表3】。

役職は、ZXY会員調査の方が「管理職」（34.6%）と「一般社員」（63.1%）の割合が一般オフィスワーカー調査よりも高く、回答者のほぼ全体を占めた【図表4】。この理由としては、企業がZXYを導入するにあたり、管理職や、正規雇用の一般社員に優先的にアカウントを付与しているためであると考えられる。

【図表3】職種（ZXY会員調査／一般オフィスワーカー調査）



【図表4】役職（ZXY会員調査／一般オフィスワーカー調査）



* 一般オフィスワーカー調査ではそれぞれ、「会社・団体の役員」「会社員・団体職員（管理職）」「会社員・団体職員（管理職以外の正社員・正職員）」「会社員・団体職員（正社員以外・正職員以外）」

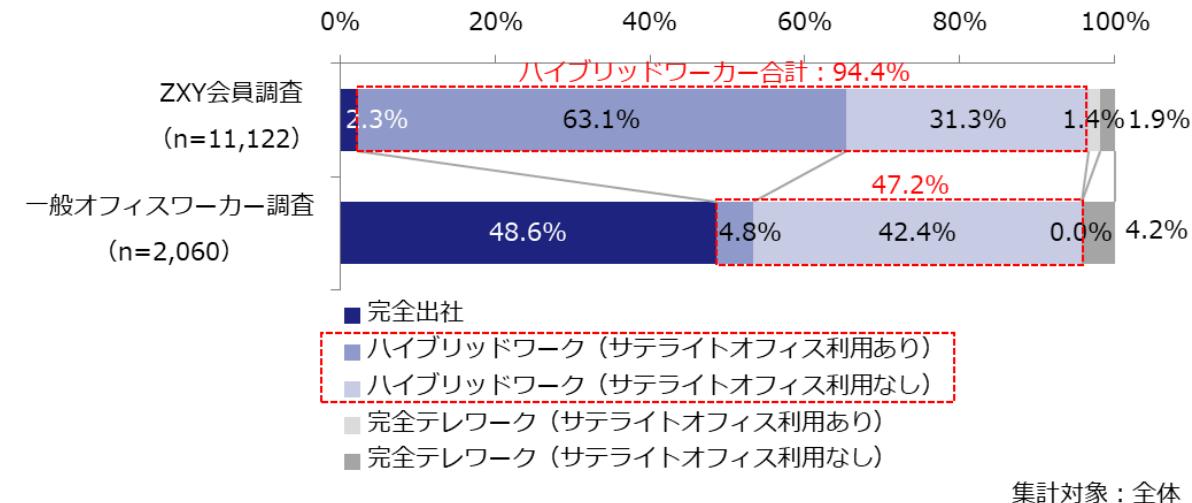
1.2. 働き方と働く場所

ZXY会員調査では、回答者の94.4%がハイブリッドワーカー

各調査の回答者のワークスタイルを、回答に基づき「完全出社／ハイブリッドワーク（サテライトオフィス利用あり）／ハイブリッドワーク（サテライトオフィス利用なし）／完全テレワーク（サテライトオフィス利用あり）／完全テレワーク（サテライトオフィス利用なし）」の5つに分類した【図表5】。

ZXY会員調査の回答者の94.4%はハイブリッドワーカー（「ハイブリッドワーク」の合計）であった。一般オフィスワーカー調査の結果（47.2%）と比べると、ZXY会員は、働く場所を複数の選択肢から選ぶ先進的な働き方を実践しているといえるだろう。

【図表5】働く場所の組み合わせ（ZXY会員調査／一般オフィスワーカー調査）



1.2. 働き方と働く場所

テレワーク6割、オフィスへの出社4割で働き、労働時間の8.3%はサテライトオフィスを利用

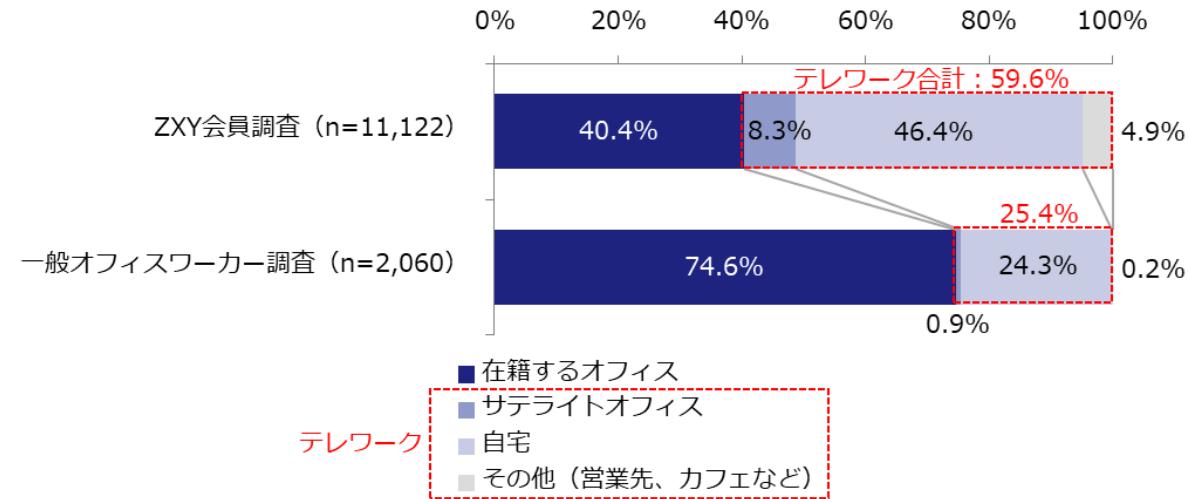
「在籍するオフィス」「サテライトオフィス（*）」「自宅」「その他（営業先、カフェなど）」の4つの働く場所について、各場所で働く時間の割合を聞き、その結果をZXY会員調査と一般オフィスワーカー調査とで比較した【図表6】。

*「ZXY」と「ZXY以外のサテライトオフィス」の時間割合を合算。

ZXY会員調査の回答者は、労働時間の59.6%をテレワークで働いており、一般オフィスワーカー調査の回答者のテレワーク時間割合（25.4%）と比べ顕著に高かった。

また、ZXY会員調査の回答者は、労働時間の8.3%を「サテライトオフィス」で働いていた。テレワークの時間の大半を「自宅」が占める一般オフィスワーカーと比べ、ZXY会員はより多様な働く場所を利用しているといえるだろう。

【図表6】働く場所の時間割合（ZXY会員調査／一般オフィスワーカー調査）



集計対象：全体

1.3. 働き方や制度に対する満足度

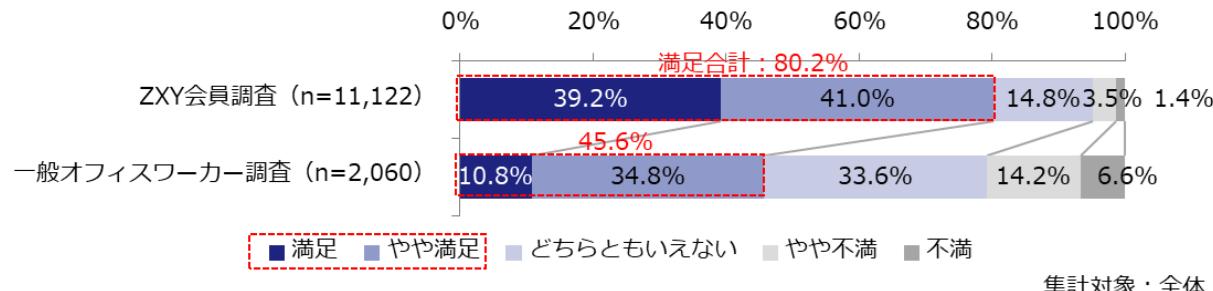
サテライトオフィスを利用するハイブリッドワーカーは働き方や制度への満足度が高い

現在の働き方や制度に対する満足度を聞いた結果、ZXY会員調査では「満足」または「やや満足」と回答した割合が80.2%と、一般オフィスワーカー調査（45.6%）を大きく上回った【図表7】。

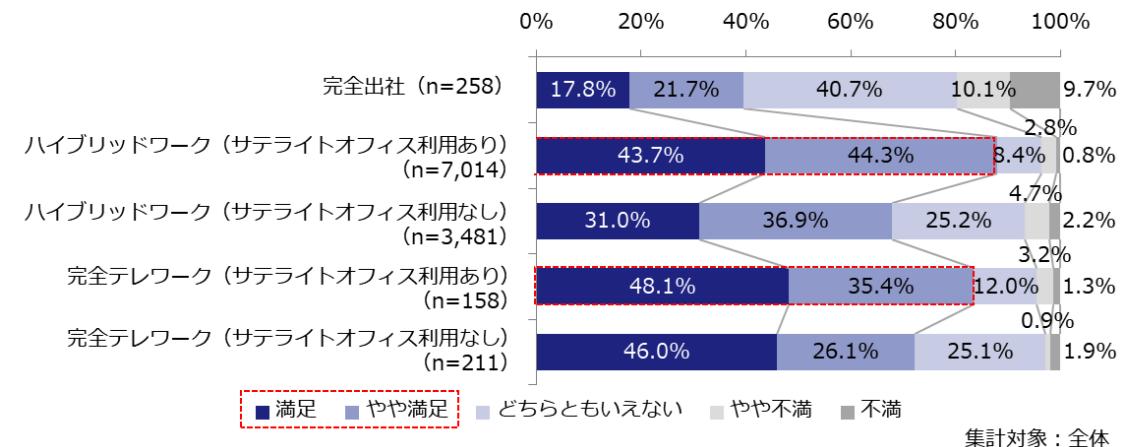
また、ZXY会員調査の結果について、【図表5】の働く場所の組み合わせ別に比較すると、「ハイブリッドワーク（サテライトオフィス利用あり）」のグループは最も満足度が高く（「満足」と「やや満足」の合計88.0%）、「完全出社」（同39.5%）を大幅に上回る結果となった【図表8】。新型コロナの5類移行から1年以上が経過したが、完全出社に戻すのではなく、出社とサテライトオフィス勤務含むテレワークをうまく組み合わせることが、従業員の満足度向上に良い効果をもたらしている可能性があるかもしれない。

なお、「完全テレワーク」の2グループも比較的満足度が高い結果となったが、このグループの属性を確認したところ、年代は50代・60代の高齢層、役職は一般社員、職種は「研究開発・設計・SEなどの技術系専門職」の割合が高い傾向がみられた。全体に占める割合も3.3%と少ないことから、特殊な層といえるだろう。

【図表7】現在の働き方や制度に対する満足度（ZXY会員調査／一般オフィスワーカー調査）



【図表8】<働く場所の組み合わせ別> 現在の働き方や制度に対する満足度（ZXY会員調査）



2. サテライトオフィスの「アクティブユーザー」の特徴

1. アクティブユーザーの評価と働き方
2. 長時間ユーザーの基本属性
3. 長時間ユーザーの働き方と評価
4. 非アクティブユーザーのZXYの利用意向

2.1. アクティブユーザーの評価と働き方

サテライトオフィスのアクティブユーザーの87.9%は、現在の働き方や制度に満足している

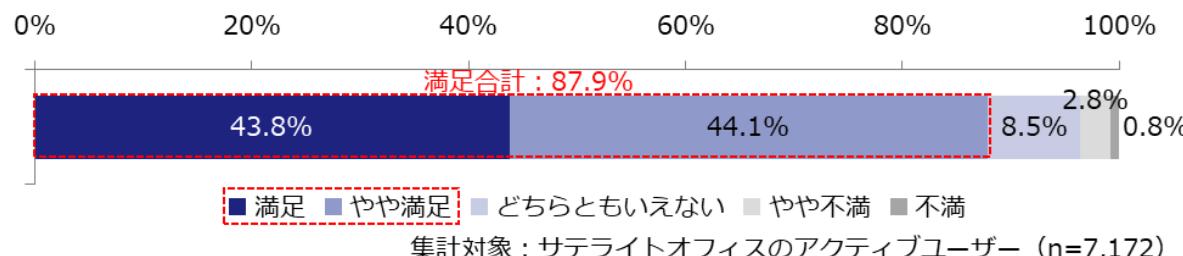
ZXY会員調査の回答者のうち、過去半年程度でサテライトオフィス（「ZXY」と「ZXY以外のサテライトオフィス」のいずれか一つ以上）を利用したと回答した人は64.5%であった。

第2章では、ZXY会員の中でもサテライトオフィスを日常的に利用している層の特徴を確認するため、この64.5%を「サテライトオフィスのアクティブユーザー」として分析する。

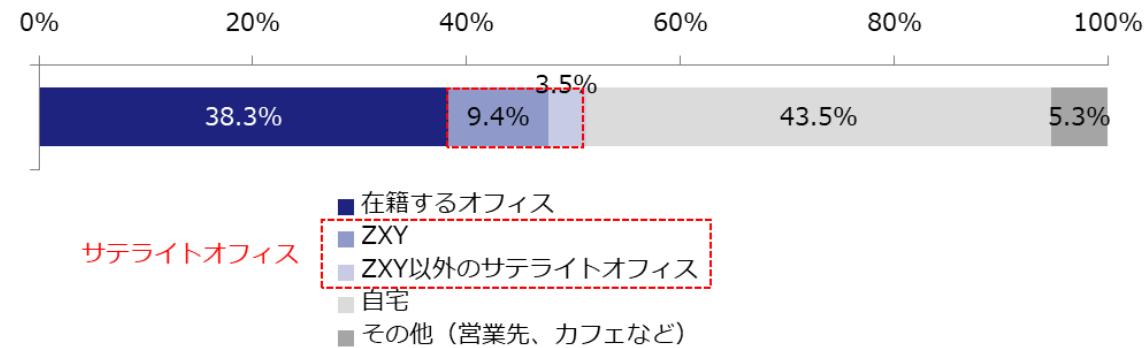
まず、現在の働き方や制度に対する満足度を聞いた結果、「満足」または「やや満足」と回答した割合は合計87.9%に上った【図表9】。これはZXY会員全体の満足度（80.2%、【図表7】）と比べてもさらに高い。

また、サテライトオフィスのアクティブユーザーが普段働く場所の時間割合をみると、在籍するオフィスへの出社が38.3%で、残り6割超の時間をテレワークで働いている【図表10】。サテライトオフィスで働く時間は12.9%を占め、週5日勤務とすると週に約半日程度となる。

【図表9】現在の働き方や制度に対する満足度



【図表10】働く場所の時間割合



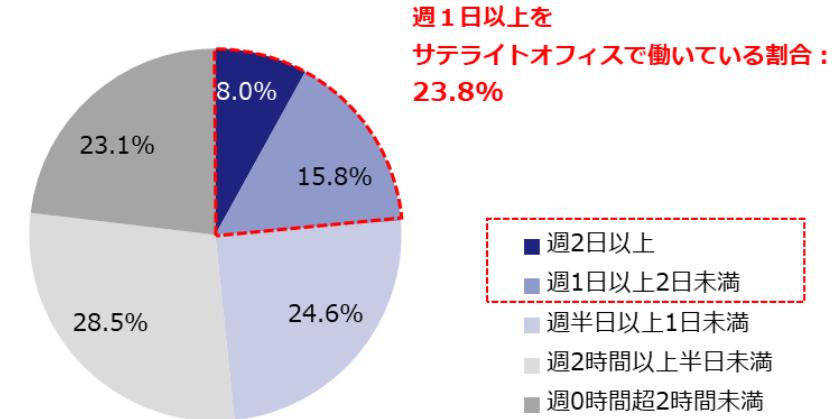
2.1. アクティブユーザーの評価と働き方

アクティブユーザーの8.0%は、週2日(16時間)以上をサテライトオフィスで働いている

サテライトオフィスのアクティブユーザーについて、1日8時間・週40時間労働としてサテライトオフィスの週の利用時間を算出したところ、平均5.2時間／週（中央値2.8時間／週）であった。

また、週の利用時間に基づきアクティブユーザーを5つのグループに分けた結果、週16時間以上、つまり週2日以上をサテライトオフィスで働いている人は8.0%、週1日以上2日未満では15.8%に上った【図表11】。

【図表11】 サテライトオフィスの利用時間ごとのユーザーの割合



集計対象：サテライトオフィスのアクティブユーザー (n=7,172)

※1日8時間・週40時間労働と仮定し、4時間は半日、8時間は1日、16時間は2日としてグループ分けを行った。

2.2. 長時間ユーザーの基本属性

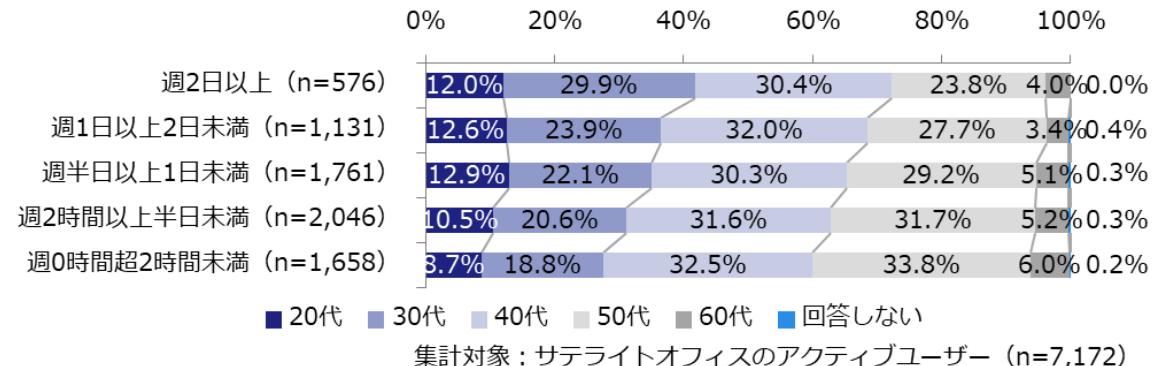
長時間ユーザーほど20代・30代の若年層の割合が高く、短時間になるほど50代の割合が高い

サテライトオフィスの利用時間別に、各グループの基本属性を確認した。

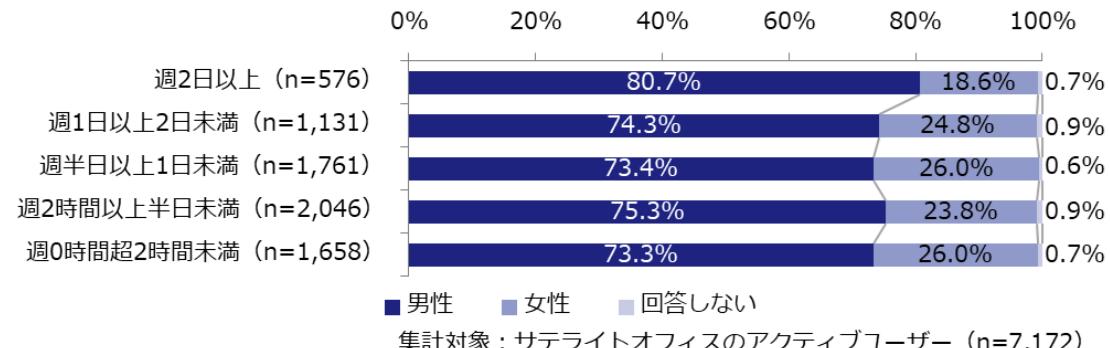
年代は、長時間ユーザーほど20代・30代の若年層の割合が高く、特に30代が多い【図表12】。一方、短時間ユーザーほど50代の割合が高い傾向がみられた。

性別は、最も長時間である「週2日以上」で男性の割合が若干高かったものの、大きな差はみられなかった【図表13】。

【図表12】<サテライトオフィスの利用時間別>年代



【図表13】<サテライトオフィスの利用時間別>性別

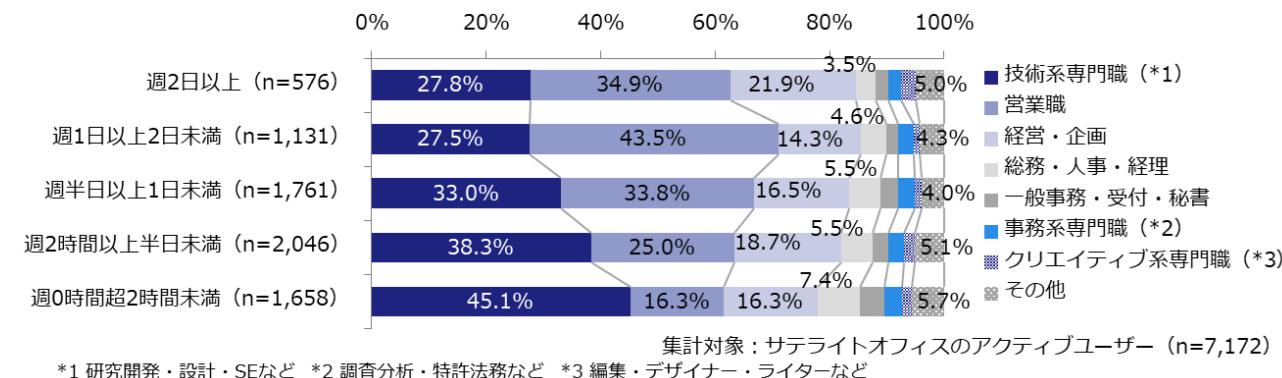


「週2日以上」や「週1日以上2日未満」の長時間ユーザーは「営業職」の割合が高い傾向

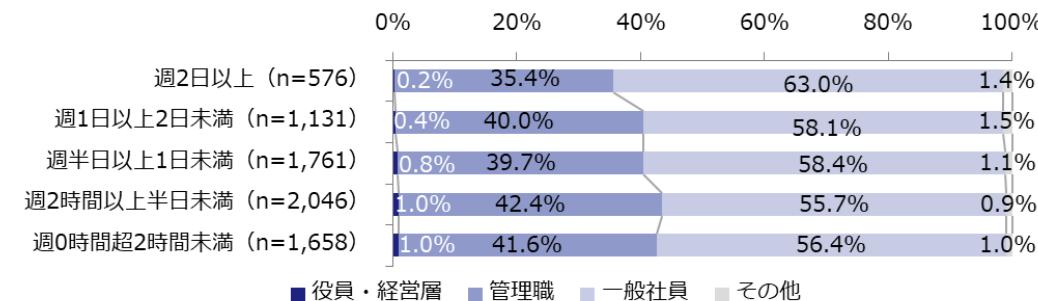
職種は、「週2日以上」や「週1日以上2日未満」の長時間ユーザーは「営業職」の割合が高く、短時間になるほど「研究開発・設計・SEなどの技術系専門職」の割合が高くなる傾向がみられた【図表14】。

役職は、最も長時間である「週2日以上」で若干「一般社員」の割合が高い傾向がみられた【図表15】。

【図表14】<サテライトオフィスの利用時間別>職種



【図表15】<サテライトオフィスの利用時間別>役職



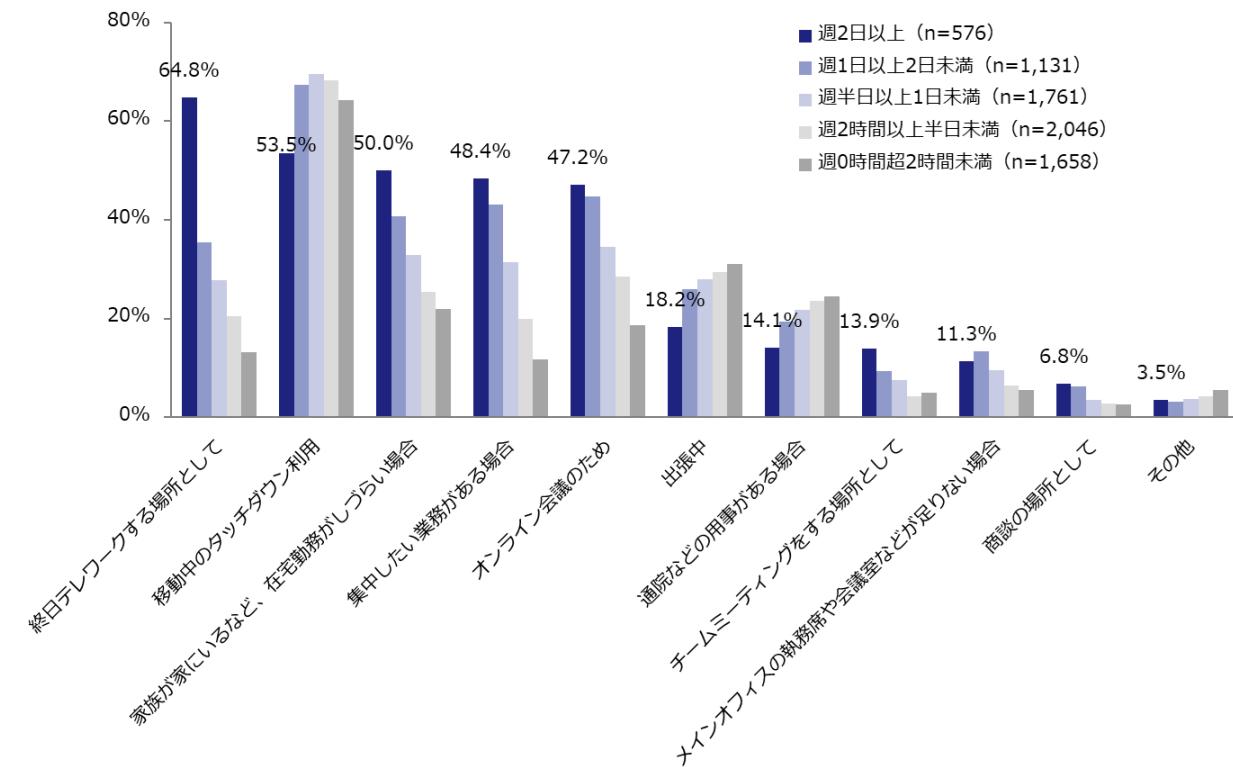
2.3. 長時間ユーザーの働き方と評価

長時間ユーザーのZXY利用目的は「終日テレワークする場所」「在宅勤務の代わり」「集中」など

ZXYを利用する目的や場面を複数選択で聞いた結果を、サテライトオフィスの利用時間別に比較した【図表16】。

長時間ユーザーでは「終日テレワークする場所として」や「家族が家にいるなど、在宅勤務がしづらい場合」、「集中したい業務がある場合」などの項目が短時間ユーザーと比べて高い割合となった。一方、「移動中のタッチダウン利用」や「出張中」、「通院などの用事がある場合」などは短時間ユーザーにおいてより選択されており、ユーザータイプによってZXYの利用目的が違うことがわかった。

【図表16】<サテライトオフィスの利用時間別> ZXYを利用する目的・場面



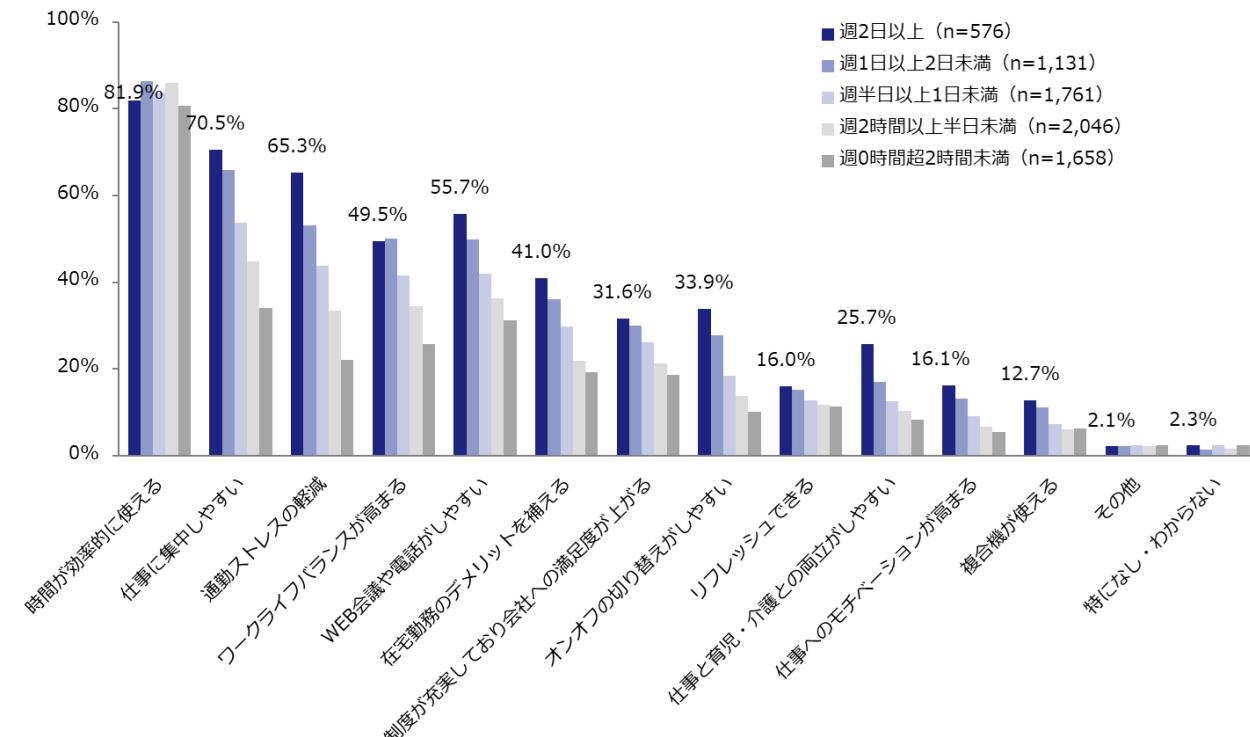
長時間ユーザーほど、仕事の質に関わる多様なメリットを感じている

ZXYが利用できることにより感じているメリットを聞き、その結果をサテライトオフィスの利用時間別に比較した【図表17】。

総じて、長時間ユーザーほど多様なメリットを感じていることがわかった。特に「仕事に集中しやすい」や「通勤ストレスの軽減」、「WEB会議や電話がしやすい」など、仕事の質やウェルビーイングに関わる項目で差が大きい。このことから、必要な時間利用できる環境や裁量を従業員に与えることは、企業にとってもメリットがあると考えられる。

対して、利用時間の長短による差がみられない項目は「時間が効率的に使える」であった。

【図表17】<サテライトオフィスの利用時間別> ZXYが利用できることにより感じているメリット



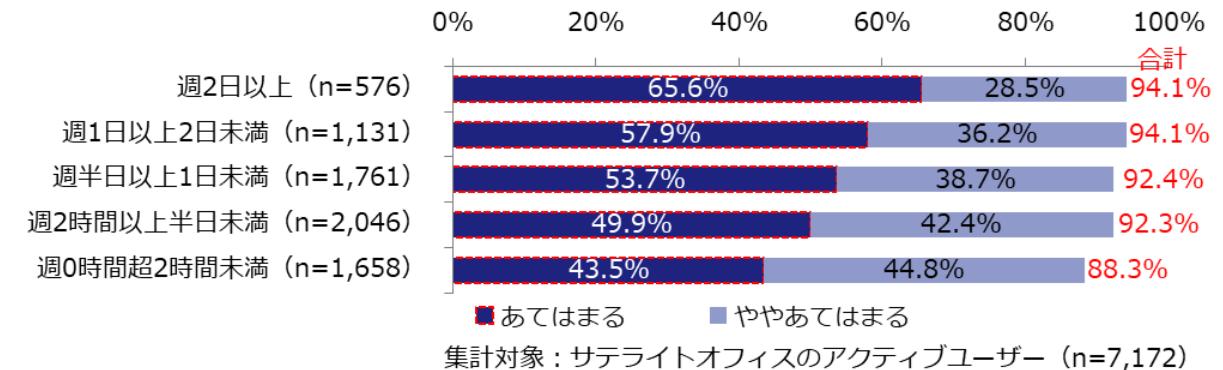
2.3. 長時間ユーザーの働き方と評価

利用時間の長短に関わらず、アクティブユーザーの8割超は「より生産性高く働けていると感じる」

ZXYが利用できることで、より生産性高く働けていると感じるか否かを聞いた結果を、サテライトオフィスの利用時間別に比較したところ、長時間ユーザーほど「あてはまる」の割合が高く、最も長時間の「週2日以上」グループでは65.6%に上った【図表18】。

なお、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計の割合では、最も短時間の「週0時間超2時間未満」グループでも88.3%に上り、利用時間による大きな差はみられなかった。

【図表18】<サテライトオフィスの利用時間別> ZXYが利用できることで、より生産性高く働けていると感じる割合



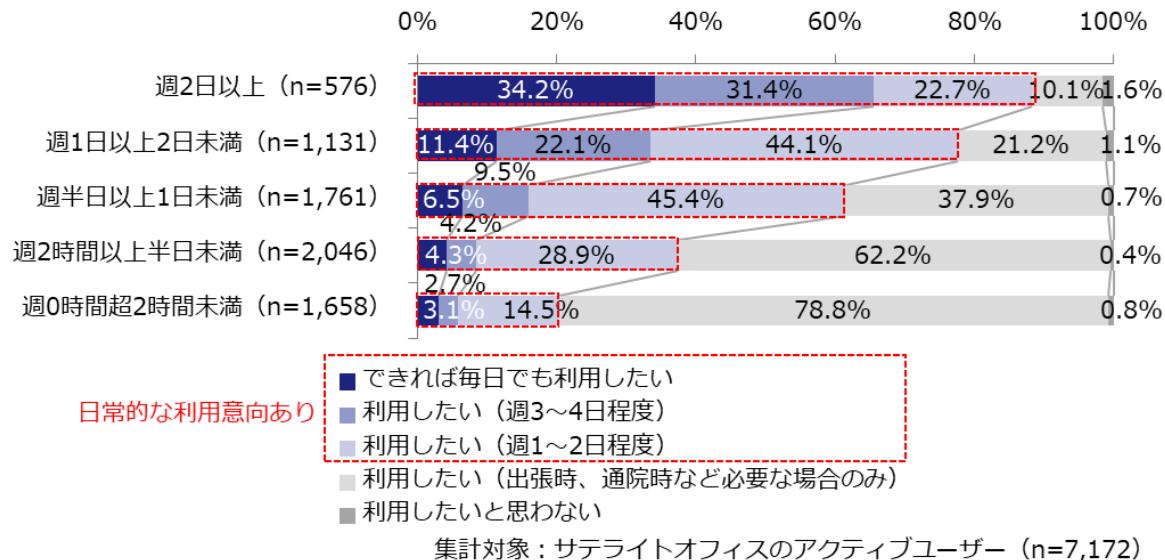
2.3. 長時間ユーザーの働き方と評価

長時間ユーザーは日常的な利用、短時間ユーザーは出張や通院時のニーズが高い

今後のZXYの利用意向を聞いた結果については、サテライトオフィスのアクティブユーザーのほぼ全員が、程度の差はあれ「利用したい」を選択した【図表19】。

ただし、「できれば毎日でも利用したい」から「利用したい（週1～2日程度）」の、日常的な利用意向がある割合については、長時間ユーザーほど高かった。利用時間が短いユーザーほど「利用したい（出張時、通院時など必要な場合のみ）」の割合が高くなっている、日常的には利用していないくとも、必要な場合には利用できる環境が期待されていると考えられる。

【図表19】<サテライトオフィスの利用時間別>今後のZXYの利用意向



2.4. 非アクティブユーザーのZXYの利用意向

サテライトオフィスの非アクティブユーザーでも、8割超はZXYの利用意向あり

ここまでサテライトオフィスのアクティブユーザーに焦点を当ててきたが、非アクティブユーザーにおいても、82.7%はZXYの利用意向について「利用したい」と回答した【図表20】。特に「利用したい（出張時、通院時など必要な場合のみ）」が64.4%であり、必要な場合のセーフティネットとして利用できる環境が期待されていると考えられる。

今回の調査では、勤務先におけるサテライトオフィスの利用制限の有無や内容を自由記述で聞いており、その回答から、本当は使いたくても利用しづらい会員が存在することがわかつている。たとえば、利用時間の制限（「1回3時間まで」「月50時間まで」など）や、上長への報告・承認制、拠点立地の制限（「本社オフィス付近の利用禁止」など）といった各社の運用ルールがみられたほか、「明示的な制限はないが雰囲気的に長時間の利用はしづらい」といった回答もみられた。

しかし、第2章でみてきたとおり、長時間ユーザーほどZXY利用による生産性向上の効果や多様なメリットを感じている。ハイブリッドワークの定着にあたり、従業員に在宅勤務以外の場所の選択肢と裁量を与えることは、企業にとっても有益であると考えられる。

【図表20】<サテライトオフィスの利用度別>今後のZXYの利用意向

